様式２－１－３

大学・高専機能強化支援事業（支援２：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【高等専門学校】実施状況報告書

選定年度	令和7年度	学校コード	G140110111107	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
高等専門学校名	久留米工業高等専門学校	設置区分	国立	事業計画名	久留米工業高等専門学校における新時代に活躍する分野横断的高度情報専門人材の育成
学校種	高専	都道府県	福岡		

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和7年度	【令和7年4月1日時点の入学定員】 制御情報工学科40名 令和８年 3月　収容定員増の学則変更申請 ~~①12月 情報科学科学生数増員のため情報科学科棟設計（前金払い）~~（R7.12.5承認） ~~②4月 情報科学科設置に向けたカリキュラム編成~~（R7.12.5承認） ①4月 情報科学科設置に向けたカリキュラム編成（R7.12.5承認）	令和8年3月に収容定員増の学則変更申請を行った。 ①R7年4月より情報科学科設置に向けたカリキュラム編成を行い令和7年12月に編成を完了した。	令和7年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
令和8年度	令和８年４月　情報科学科設置に係る事前相談 ~~①4月 情報科学科学生数増員のため情報科学科棟設計（最終回払い）~~（R7.12.5承認） ~~②8月 情報科学科学生数増員のため情報科学科棟新築工事（３月竣工予定）~~（R7.12.5承認） ~~③4月 高度情報人材育成のためのプログラミング演習及びPBL教材（1年生用）の作成~~（R7.12.5承認） ①4月 高度情報人材育成のためのプログラミング演習及びPBL教材（1年生用）の作成（R7.12.5承認） ②4月 情報科学科学生数増員のため制御情報工学科棟増築設計（R7.12.5承認） ③12月 情報科学科学生数増員のため制御情報工学科棟増築工事（初年度）（Ｒ9年8月竣工予定）（R7.12.5承認）		令和8年度自己評価	リストから選択してください。
令和9年度	令和９年４月　情報科学科設置70名（30名増員） ~~①情報科学科1年生が受講する一般科目（26単位）を担当する非常勤教員を雇用~~ ~~②4月 高度情報人材育成のためのプログラミング演習及びPBL教材（2年生用）の作成~~ ①情報科学科1年生が受講する一般科目（26単位）を担当する非常勤教員を雇用（R7.12.5承認） ②4月 高度情報人材育成のためのプログラミング演習及びPBL教材（2年生用）の作成（R7.12.5承認） ③4月 情報科学科学生数増員のため制御情報工学科棟増築工事（２年度目）（8月竣工予定）（R7.12.5承認）		令和9年度自己評価	リストから選択してください。
令和10年度			令和10年度自己評価	リストから選択してください。
	①情報科学科専任の特命准教授（1名）雇用 ②情報科学科1年生と2年生が受講する一般科目（52単位）を担当する非常勤教員を雇用 ③4月 高度情報人材育成のためのプログラミング演習及びPBL教材（3年生用）の作成			
令和11年度			令和11年度自己評価	リストから選択してください。
	①情報科学科専任の特命准教授（3名）雇用 ②情報科学科1年生と2年生が受講する一般科目（52単位）を担当する非常勤教員を雇用 ③4月 高度情報人材育成のためのプログラミング演習及びPBL教材（4年生用）の作成 ④4月 高度情報人材育成のためのコース別学習教材（5年生用）の作成			
令和12年度			令和12年度自己評価	リストから選択してください。
	①情報科学科専任の特命准教授（4名）雇用 ②情報科学科1年生と2年生が受講する一般科目（52単位）を担当する非常勤教員を雇用 ③4月 高度情報人材育成のためのコース別学習教材（5年生用）の作成			
令和13年度			令和13年度自己評価	リストから選択してください。
	①情報科学科専任の特命准教授（5名）雇用 ②情報科学科1年生と2年生が受講する一般科目（52単位）を担当する非常勤教員を雇用			
令和14年度			令和14年度自己評価	リストから選択してください。
	①情報科学科専任の特命准教授（５名）雇用 ②情報科学科1年生と２年生が受講する一般科目（52単位）を担当する非常勤教員を雇用			
令和15年度			令和15年度自己評価	リストから選択してください。
	①情報科学科専任の特命准教授（5名）雇用 ②情報科学科1年生と2年生が受講する一般科目（52単位）を担当する非常勤教員を雇用			
令和16年度			令和16年度自己評価	リストから選択してください。
	①情報科学科専任の特命准教授（5名）雇用 ②情報科学科1年生と2年生が受講する一般科目（52単位）を担当する非常勤教員を雇用			

フォローアップ対象年度	令和7年度	高等専門学校名	久留米工業高等専門学校

2.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の〇の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

3.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた高等専門学校であること。なお、新設予定の高等専門学校で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び高等専門学校での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学科・コース等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る学科・コース等の設置・増員（学科の定員の増員を伴わないものを含む。以下「学科・コース等の設置等」という。）を行う計画であり、学位種類分野変更基準に定める工学関係の学位の分野に係るものであること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学科・コース等の設置等の取組であること。

⑧ 機構による事業計画の選定があった日から２年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学科・コース等の設置等を行う計画であること。

⑨ 計画の対象となる学科・コース等の設置等において、20名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

⑩ 国立高等専門学校について、学校全体の収容定員の増員を伴う学科定員の増員を行う場合は、定員増を行った日から10年を経過した日までに、他学科・他コース等を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

⑪ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

⑫ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。

上記項目の①～⑪の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の〇の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
すべての項目が要件を満たしている											

①～⑪の要件を満たしていない又は対象でない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑫については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑬,⑭について	現在の状況
⑫文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。	認定を受けている

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

①　地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
自治体と連携した取り組みとしては、本校と久留米市は、豊かな地域社会の創造と学術研究の振興を目的とし、平成21年度に事業協力に関する協定を結び、久留米市に対して継続的な学術的支援を行っている。最近は、社会全体のDX推進に伴って、行政で活用するプログラムの作成や久留米城の３次元立体構造のディジタル画像再構成など、情報関連の支援で多くの実績を挙げている。情報科学科に拡大改組することによって、より広い用途や情報活用に対しての支援が可能になる。さらに、教員と学生が共同して一般市民に対しての情報教育活動も行っており、情報科学科への改組は久留米市との連携を格段に強化することとなり、市民も含めた地域に密着した連携と交流をさらに発展させる。 地域企業などと連携した取組としては、現行の制御情報工学科において、「創造プログラミング演習」の科目で地域の企業や自治体の課題を解決するPBL教育を実施している。情報科学科においても引き続き、異分野との融合領域における実課題に対処する実践的演習授業を開講し、地域の企業と連携して学生がチームで協同してシステム開発や問題解決に取り組む機会を提供する。また、情報科学科においても企業実習（短期インターンシップ）の科目を専門選択科目として実施する。	・地域自治体（久留米市）との連携として、実践的なプログラミング体験を提供する小中学生向けのプログラミング教室を開講した。 ・地域の企業や自治体の課題を解決するPBL教育として「創造プログラミング演習」を実施した。なお、課題解決に取り組んだ2課題の成果物（課題の解決方法）は、実際の課題の解決手段として導入（予算化）に向けた協議を久留米市と進めている。 ・情報科学科を含む全学科に全学科・複数学年で共同で行うPBL科目「社会課題解決演習1」及び「社会課題解決演習2」を一般共通科目に組み込むカリキュラム編成を行った。なお、本科目で取り扱う課題は班単位に設定し、各班には企業の職員をメンターとして割り当て、学生とメンターとが共同して解決すべき課題を決定する授業設計としている。 ・令和７年度に編成した情報科学科のカリキュラムに専門選択科目として企業実習科目である「学外実習」を設けた。	

②　初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本校では、小中学生に理工系を学ぶロールモデルや本校の魅力を示すため、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）のジュニアドクター育成塾を共同機関として平成30年度から令和4年度まで実施した。また、並行してJSTの女子中高生の理系進路選択支援プログラム事業を実施した。続く令和５年度は特別教育研究経費理工系人材の早期発掘とダイバーシティ型STEAM教育強化事業において、小中学校・高校への早期STEAM教育支援の推進に係る先進実践校として、キャリアシンポジウムや久留米高専ハカセ塾等を実施した。このように初等中等教育段階の小中学生に対するSTEAM 教育に数々の実績を有している。また、県内のスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けた高等学校のSSH運営指導員として参画した実績も有している。今後もこれらの実績と経験を活かして初等中等教育機関と連携を継続発展させる。佐賀県と久留米市周辺の教育委員会からは常に要望が寄せられており、これらと連携して、特異な才能のある児童・生徒の発掘を見据えた久留米高専ハカセ塾や学生主体の小中学生向け公開講座などを引き続き継続して実施する。 中学生を対象にして本校の紹介や進学情報を提供する一日体験入学、中学生と保護者対象の学校説明会・学校見学会、高専祭の一般開放などの機会において、高度情報分野の技術者や研究者のキャリアパスを中学生や保護者に広く認知してもらうPRを行う。中学校教員に対しても、10月下旬に本校、福岡市、佐賀市にて実施する入試説明懇談会や直接の学校訪問によって本校での情報教育に関する紹介を行い理解を深めてもらう。	・本校主催の公開講座に参加した中学生を対象に、本校教員及び久留米市職員による講義や本校学生とのディスカッションを経て最終的に参加者自らが創出したアイディアをプレゼンテーションする一連のプログラムを提供する久留米高専アイディア塾を実施した。 なお、令和8年度からは公益財団法人中谷財団の助成を受け理数系に優れた資質を持つ中学生を発掘し多様な興味・関心を汲み取り伸長させ科学技術分野で活躍する人材を育成するプログラムを実施する予定としている。 ・令和７年度は小中学生向け公開講座を全6講座開講し、参加者は延べ125名に上った。 ・一日体験入学（参加者：1,020人）、学校説明会・見学会（参加者：1,067人）、本校教員による中学校訪問（訪問数164校）及び入試説明懇談会（参加者：103人）において本校の情報教育の紹介を行い認知度の向上に努めた。	

③　女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本校では前述のようにこれまでJSTの女子中高生の理系進路選択支援プログラム事業などを実施するとともに、制御情報工学科では独自に女子中学生向けの公開講座を実施してきた。本校の現在の女子学生の割合は全体で24 %であり、制御情報工学科では14 %と少なめである、一方、関連する物質系の生物応用化学科と材料システム工学科ではそれぞれ52 %と30 %に達している。マテリアルズインフォマティクスコースの開設が女子中学生への情報科学のアピール度を増す方向に働くことが期待できる。情報科学科に改組した後も、理系女子学生比率の向上のために女子中学生向けの公開講座を引き続き開催する。 本校では、国費留学生、マレーシア政府やモンゴル政府留学生、タイ高専編入留学生などを受け入れてきており、制御情報工学科には、ソフトウエアやコンピュータネットワークの専門技術の習得を求めて優秀な留学生が入学してきている。情報科学科は３コース制により専門分野が広がるため、より多くの留学希望者の関心を惹きつけることができる。制御情報工学科では、シンガポール・ポリテクニックからの研究インターンシップを受け入れてきた実績もある。タイ高専KOSEN-KMITLが設立されて5年が経ち、２校目のKOSEN-KMUTTも来年度に初めての卒業生を輩出する。これらの2校には本校から令和5年度に1名の教員が派遣され、令和7年度にはさらに2名の教員が派遣予定である。また令和7,8年度にはタイ高専学生30名に対して一ヶ月にわたる実習を行う計画がある。このようにタイ高専と本校の関係は今後大きく深まり認知度も飛躍的に高まる。併せてシンガポール・ポリテクニックとの関係も今後発展させていく。	・令和7年6月13日から7月10日にかけての約１カ月間、タイ高専（KOSEN KMUTT）の学生を受入れプロジェクトや本校の専門学科の特色に応じたプラクティス（課題）に取り組む研修を実施した。 ・令和７年度は本科3年生に4人の外国人編入生を受入れ、その内の1人は情報系学科である制御情報工学科に編入した。 ・フランスのIUTから2人の研究インターンシップを受入れた。その内の1名は情報系研究室に所属し研究を実施した。 ・入学者に占める女子学生比率を向上させるため一日体験入学や学校説明会等の入試広報行事で行う学科紹介にロールモデルを通じた具体的なキャリアパスの提示や女子学生の活躍事例の紹介を含める等女子生徒の修学意欲を高める工夫を行った。	

④　他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本校では九州大学芸術工学研究院の教員を美術科目の講師として迎えて、制御情報工学科の学生に対してコンピューター・グラフィックスの教育を行っている。情報科学科においても引き続き同科目の担当を継続依頼する。九州大学芸術工学研究院との連携は、本校でのSTEAM教育を発展させるために今後さらに広げていく予定にしており、同時に芸術など文科系も包括する情報科学分野での演習課題の提供や連携教育を進める。 筑後川を挟んで本校の対岸に位置している久留米大学は医学部と文科系学部を擁しており、理工系が専門の本校とは互いに得意とする専門分野を補完する形で協働した連携が密接に進められている。近年では、制御情報工学科の教員や学生が、医療での画像処理やプログラム開発など、情報処理を活用した新たな診断手法の開発などに関する共同研究を多く行ってきており、その中から前述の「創造プログラミング演習」などでの実践的課題が提供される。 この他の大学や他の高等専門学校の教員とは、情報科学科における最新技術を紹介するオムニバス科目や情報系の専門科目の授業に当該教員の専門研究を紹介する内容を取り入れる計画である。	・令和７年度に編成した情報科学科のカリキュラムにもコンピューター・グラフィックスの教育を行う科目を設けた。なお、当該科目の講師には九州大学芸術工学員の教員を迎える計画としている。 ・久留米大学との連携深化を目的に「第2回久留米大学・久留米高専交流会を開催（R7.9.19）し、大学と高専間の連携の観点を踏まえた研究発表や今後の連携に関するディスカッションを実施した。 ・他大学や他の高等専門学校の教員の専門研究の紹介を通じ情報科学の最新技術を理解する科目を情報科学科のカリキュラムに編成した。本科目の実施により他大学・他高専との人的連携を行う。	

⑦　文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度について、申請要件である「リテラシーレベル」に係る要件を満たすのみならず、更に「応用基礎レベル」の認定を受けている、又は「応用基礎レベル」の認定を受ける計画があるか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度については、令和４年度に「リテラシーレベル」が学校として認定された。平成31年度以降の入学者に対して認定された教育プログラムを実施している。制御情報工学科は、令和５年度に「応用基礎レベル」に認定され、平成30年度以降の入学者に対して認定された教育プログラムを実施している。情報科学科の教育プログラムは、制御情報工学科の教育プログラムと同様、応用基礎レベルの基準を満たすため、「応用基礎レベル」の認定を即座に受ける計画である。	本校では、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」にて、令和4年度に「リテラシーレベル」に学校として認定され、令和5年度に制御情報工学科が「応用基礎レベル」に認定されている。	

高等専門学校名	久留米工業高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる情報系組織の状況

＜内訳＞

(1)

改組組織名	情報科学科

		年度		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
		改組状況		選定	届出																	
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	70	70																	
		編入学定員	人	0	0																	
学生の入学・在籍状況	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																	
		入学者数(B)	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		就職者数	人	-	-																	
		進学者数	人	-	-																	
		その他	人	-	-																	
		進路不明	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																	
		授業科目の単位数	単位	-	-																	

高等専門学校名	久留米工業高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）

２.情報系組織の状況

年度				R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
大区分	小区分	項目	単位																			
	入学者合計	入学定員（A）	人	40	40																	
		入学者数（B）	人	41	43																	
		女子学生数	人	4	0																	
		社会人学生数	人	0	0																	
		留学生数	人	0	0																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.03	1.08																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	200	200																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数(D)	人	213	217																	
		編入学者数	人	1	2																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.07	1.09																	
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	37	-																	
		就職者数	人	16	-																	
		進学者数	人	20	-																	
		その他	人	1	-																	
		進路不明	人	0	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	3	1																	
		授業科目の単位数	単位	13	10																	

高等専門学校名	久留米工業高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）

３.高等専門学校全体の状況

大区分	小区分	年度 / 項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
	入学者合計	入学定員（A）	人	200	200																	
		入学者数（B）	人	220	221																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.10	1.11																	
	収容定員等	収容定員（C）	人	1,000	1,000																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数（D）	人	1,059	1,064																	
		編入学者数	人	5	3																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.06	1.06																	

４.外部資金の状況（全学）

年度 / 項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
外部資金獲得額	千円	53,082	-																	

特記事項